

日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画

2026 年 7 月 岩田望来

□はじめに

岩田です。先日過酷な 18 時間フライトを乗り越え、無事帰国いたしました。暑くて溶けそうです。20℃前半の雨期から 30℃後半の夏にぶち込まれて、もう大変です。目が回りそう。

今回のレポートでは 7 月に行った各地の旅行とグアナファトでの研修について書いていきたいと思っています！

□ユカタ半島縦断旅行(リベンジ)

一度行ったユカタンですが、旅行中に大熱を出し、治療に専念する悲しい旅行をしました(12 月のレポート参照……)。そのときから帰国前の 7 月の上旬にリベンジ旅行をしようと決めていました。

8 泊 9 日の長期旅行。2 日目にチチェン・イツツァ、6 日目にトゥルム遺跡の見学をはさみ、メリダー→バヤドリッド→トゥルム→プラヤ・デル・カルメンの順で辿ったあと、カンクンの空港を経て CDMX に帰ってきました。チチェン・イツツァは念願でした。どう調べても帰り方が出てきませんでしたが、いつもの「観光地だし現地の人に聞けばどうにかなるでしょう!」で乗り越えました。



右:チチェン・イツツァ、Castillo(ククルカンの神殿)。手を叩くとハチドリの鳴き声が聞こえてくる。

中央:ロンガニーサ(豚の腸詰め)のステーキ。バヤドリッド発祥らしい。

左:トゥルム遺跡。海に面している珍しい遺跡。

この旅行のハイライトはトゥルムの地域博物館(Museo Regional de la Costa Oriental)の特別展「Proyecto Esperanza(希望展)」でした。キューバから来た難民ボートとその写真、ボートに乗っていた日用品や衣料品、非常食などを展示していました。かなり長い時間籠り、色々考えていたと思います。そして、鏡を展示する最後のパネルにこのようなことが書いてありました。

“Este espejo no muestra solo tu rostro, te pone en perspectiva entre dos realidades”

「この鏡はあなたの顔だけでなく、ふたつの現実の間に揺れるあなた自身を映します」

“Siéntete afortunado de estar aquí, toma un listón y escribe un mensaje de esperanza”

「ここにいられることを幸運に思ってください。リボンを手に取り、希望のメッセージを書いてください」

私はリボンを手に取りました。とても感情的になったし、色々考えさせられたので、何かを書こうと思ったのです。でも、できなかった。何も書けませんでした。

私はここで彼らのことを知って、勉強になったと思えるけれど、彼らはここにすら辿り着けなかったかもしれない。私は現状、どう足掻いても、日本という恵まれた国の国籍を持つ恵まれた日本人であり、彼らの勇気や覚悟、信仰を真に理解することはできない。専攻なのに、難民問題で卒業論文を書こうと思っていたのに、言葉が何も出てこない。悔しくて、虚しくて仕方ありませんでした。1か月以上経った今もこの展示のことを忘れたことは一度もありません。あのとき、私は何を書くべきだったのか。行く場所の知らないもやもやは生涯ずっと心の底に溜まり続けるでしょう。

□オアハカ&プエブラ旅行

ユカタン半島から帰還後、オアハカへ向かいました。こちらは10泊11日。日墨の同期から「オアハカかわかった!」「プエブラよかった!」との口コミをもらっていたので、帰国する前に絶対に行こうと決めていました。ただ旅行中に生理になってしまい、ほとんど動けず……。モンテ・アルバンにはかうじて行くことができました。ピラミッドを登って、絶景を拝みました。面白かったです。ただ、生理2日目に行っていい場所ではなかった笑笑。キツすぎて吐くかと思いました笑。



右:かの有名な Danzante (踊る人)。実際捕虜や奴隷への拷問だったそう。

左:パレード。オアハカの伝統衣装かわいい。

オアハカはカカオの原産地です。私はほぼ毎日ココアを飲むほどカカオが大好きで、オアハカ滞在中はそれ以上、これでもかというほどチョコレート・コン・レチェを飲み、これでもかというほどモレ・ネグロを食べました。生理だから鉄分!と言い訳しながら……。カカオ好きにはたまらない街でした。

またオアハカでは7月に La Expo Feria Huajuapán de León というお祭りが 있습니다。残念ながらプエブラに行かなければならなかったため最も盛り上がる当日に参加することはできませんでしたが、その前夜祭のパレードには遭遇しました。お姉さんにオアハカチーズを投げてもらいました。

プエブラにはお土産を探しに行ったといっても過言ではありません。本当はチョルーラ遺跡に行きたかったのですが、生理のせいか調子が悪く、断念しました。プエブラのお土産といえばタラベラ焼きです。青色のイメージがあるかと思いますが私が行った Almando という工房のタラベラ焼きは結構カラフルでした。タラベラ焼きは偽物も多いそうなので、ちゃんとした工房で買うことをおすすめします。

□グアナファト研修



右：エストウディアンティーナ。龍之介さん曰く有名なグループらしい。

中央：ピピラの丘から望むグアナファト市の景色

右：アボカド味のアイス。メキシコで食べたアイスの中ではトップレベルに美味だった。

帰国間近となった7月後半に念願のグアナファト研修へ行きました。2泊3日です。現在グアナファト市やレオン市はそこまで危険だとは思っていませんでしたが、その周辺の高速道路や一部の街はまだ少し不安とのこと。例年行けても今年は行けなかった場所も多々ありました。

初日はレオン市。在レオン日本国総領事館を表敬訪問しました。青山総領事とは日系メキシコ人のルーツの話や日墨間の交流（日本文化を好いてくれるメキシコ人が多いなど）についてお話をさせていただきました。非常に貴重な時間をいただけたと思います。その後グアナファト市に移り、エストウディアンティーナを鑑賞しました。音楽団と街を練り歩くという経験は日本ではできないでしょう。

二日目はグアナファト州政府の教育課を訪問しました。グアナファト州の教育機関やその仕組みについて知ることができました。それ以外の時間はグアナファト市を観光しました。ピピラの丘やグアナファト大学の階段、鉱山、アロンディガ・デ・グラナディタス（ミゲル・イダルゴ神父の首が飾られた建物）、ディエゴ・リベラの生家など。グアナファトの歴史を垣間見ることができて楽しかったです。

三日目はグアナファト州の周辺にあるサン・ミゲル・デ・アジェンデとドローレス・イダルゴに行ってきました。シケイロスの壁画を見たり、教会を訪れたり、アボカド味のアイス(!?)を食べたりしました。グアナファト市もそうですが、かわいらしい街並みのなかでも独立の歴史を感じられる、素敵な街でした。

□おわりに

1年間となると最初は長いと感じていましたが、後半はやたら時間が経つのが早かったように感じます。想像以上にメキシコはいい国でした。たまに変な人はいますがほとんどのメキシコ人たちは優しく、世界無形遺産（料理）は美味しく、遺跡にはロマンがあって、そのほかにも素敵どころがたくさんあります。本当に色々なことがありましたが、日墨生としてメキシコに行けてよかったと心から思います。

治安が悪いからとレッテルを貼って終わりにするのではなく、ぜひもっと多くの日本人にメキシコに行ってみてほしいです。一度行けばきっとメキシコの良さがわかると信じています。当の私も、この先何度もメキシコに戻ると思います。人の優しさ、美食、ロマンと、まだ見ぬメキシコの良さを求めて。